

AIRP 参加報告書

筑波大学附属病院 放射線診断科 星合壮大

筑波大学附属病院若手医師海外派遣事業プログラムを利用させていただき 2014 年 9 月 22 日から 10 月 17 日の日程で開催された AIRP (American Institute for Radiologic Pathology) の Four-week Radiologic Pathology Correlation Course に参加する機会を頂きましたので、報告させていただきます。

1. AIRP のセミナーについて

このセミナーは、アメリカ合衆国の若手放射線科医のために行われている 4 週間で放射線診断学の全分野を網羅するセミナーで、AIRP が年に 5 回開催しています。以前は Armed Forces Institute of Pathology が主催していましたが、2011 年からは主催団体が現在の AIRP となっています。開催場所は、ワシントン DC 中心部から北東に地下鉄で 20 分ほどの位置にあるシルバースプリングで、この街の AFI Silver Theater という名称の映画館で開催されています。

セミナーは講義が主体で、月から金曜日、朝 8 時から夕方 4 時半頃まで昼休憩を挟んで行われます。神経、胸部、心血管、消化器、泌尿生殖器、乳腺、小児、骨軟部、核医学のサブコースに分かれており、1 コマ 50 分程度で、私が参加したコースでは、それぞれ 35、28、10、26、20、9、26、36、4 コマのレクチャーがありました。希望すればサブコースのみの参加も可能ですので、放射線科医のみならず各診療科の医師にとっても非常に有効な放射線医学を学ぶ機会になります。各分野の講師は、いずれもその分野のスペシャリストで、身振り手振り交えて講義が行われます。講義は非常に重要な情報が多く含まれており、日本では見たことない疾患も数多く提示され、画像と病理の非常に美しいコラボレーションが行われます。しばしばジョークが混ざりますが、残念ながら私が理解できたものは、わずかでありました。またコースの初日にアンサーパッドが配布され、このアンサーパッドで出席の確認ほか、講師が出題する問題の回答にも使用します。

事前に講義の PDF 形式のシラバスをダウンロードできるようになっていて、予習することが可能になっています。参加者の多くはタブレットやラップトップにシラバスを入れて、講義を聞いていました。会場には Wi-Fi も整備されているので、気になった点などは随時インターネットで調べることが可能です。

このセミナーにはアメリカ合衆国の放射線科レジデントの 95%が自主的に参加しているとのこと。アメリカ合衆国以外からの参加者も多く、私が参加したコースでは参加者のおよそ 3 割程度はアメリカ合衆国以外からの参加でありました。

2. 渡航前準備 ; 症例登録

セミナーの参加に際して、各参加者からそれぞれ病理標本の存在する症例を持参することが義務づけられています。画像と肉眼病理の良い対応がある症例が好まれるようで、

退院サマリ、病理レポート、画像レポート、手術サマリの英訳に加え、画像データの登録が求められます。またサマリーや考察も英語で作成する必要もあり、これをコースが始まる1ヶ月前までに **online** 登録する必要があります。さらにコース1~2週目に病理スライドを持参する必要があります。幸い当院では **Translational Research and Resource core** があり、必要な病理スライドや染色に関して料金が明示されてあるので、これを利用して病理スライドを作成していただくことが可能で大変助かりました。

3. 参加してみて

これまでにセミナーに参加された先生方から非常に勉強になるとは聞いていましたが、本当に美しいスライドが多数でてきて、放射線診断学を今後も学ぶ上で非常に勉強になりました。講師たちのプレゼンテーションの上手さはなかなか日本人には真似できないと感じました。様々な国の放射線科医と交流を持てたことも非常に貴重な経験になりました。また私達が日常診療で行っている放射線診断のレベルは決して低くないということも再認識いたしました。今後も引き続き放射線科分野の医療に邁進する所存です。

4. 宿泊などについて

以前はセミナー参加者のための宿泊施設が用意されていたようですが、主催団体が現在のAIRPに変わってから無くなりました。宿泊施設は各自で手配する必要があり、私はAIRPのホームページ上で紹介されていた会場近くのホテルをリンクから予約しました。いくつかのホテルが提携先となっており、通常の宿泊料金より安く泊まることができます。ワシントン DC 中心部のホテルに宿泊されている参加者もいました。宿泊施設は多くありますが、全体的にホテルの値段は日本よりも高価です。周辺にはレストランもたくさんあり、スーパーやドラッグストアもあります。ワシントン DC へのアクセスも良好で、観光場所はたくさんあります。

この度は貴重な機会を与えていただきまして、感謝いたします。